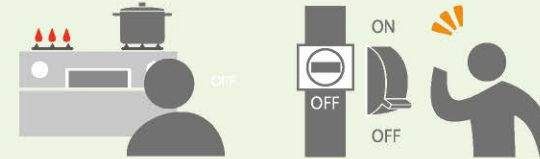
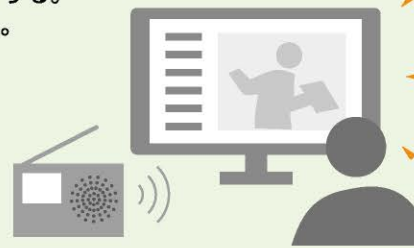






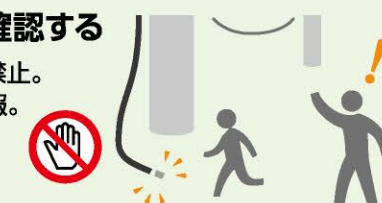

# 自助、共助～避難の心得

災害による被害を最小限におさえるには、まず自分と家族が無事であることが大切です。そこで、自分の命や地域は自分たちで守る、「自助」「共助」が必要とされており、地域防災の中心的存在となる「自主防災組織」の活動も重要視されています。

## 各個人の行動～避難の心得

|   |   |
|---|---|
| <p><b>避難する前に!</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ガスの元栓を閉め、電気スイッチ、ブレーカーを切る。</li> <li>●火が出ても落ち着いて初期消火を行う。</li> <li>●家族の安全を確認。親戚や知人に避難することを連絡する。</li> </ul>      | <p><b>正確な情報収集と自主的な避難を!</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●最新情報を入手する。</li> <li>●デマに注意する。</li> </ul>   |
| <p><b>非常持ち出し品の事前準備を!</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●玄関や寝室などすぐに持ち出せる場所に置いておく。</li> <li>●避難する時に両手が空くようにリュックサックなどに入れておく。</li> <li>●定期的の中身を確認する。</li> </ul>  | <p><b>車での避難は控え、徒歩で避難を!</b></p> <p>以下の問題が発生するおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●交通渋滞</li> <li>●浸水による故障</li> <li>●緊急車両の妨げ</li> </ul>  |

## 水害後の安全確認


|  |  |
|--|--|
| <p><b>LPガスボンベに異常はないか?</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●安全確認をする。</li> <li>●たばこやその他の火気厳禁。</li> </ul>           | <p><b>危険物の漏れ出しはないか?</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●発見したら周りに注意を呼びかけ、必要に応じて消防署へも通報して適切に処理する。</li> </ul>  |
| <p><b>断線がないか確認する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●子供たちの接近禁止。</li> <li>●電力会社への通報。</li> <li>●触らない。</li> </ul>  | <p><b>屋根瓦やアンテナなど、頭上の危険物を確認する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●屋根の上には登らず、遠くから確認しましょう。</li> </ul>          |

## 罹災証明書の申請について


●罹災証明書は、国や自治体からの支援を受けたり、自身が加入している各種保険の適用を受けたりするときに必要となる場合があります。申請には期限がありますので、早めに申請しましょう。

●被災の状況が分かる写真を、複数の場所や角度で撮りましょう。

**外観** **内観**



撮影は、携帯電話のカメラでも大丈夫です。



## 自主防災組織の活動に参加しましょう!

大規模災害時には、行政機能が制限されることがあるため、地域住民が協力して初期消火や、負傷者等の救出救援などを行う必要があります。そのためには、自主防災組織の活動がとて重要で、日頃から防災知識の普及、地域の安全確認、防災資機材の備蓄、防災訓練などを行い、災害時には初期消火、救出救助、安否確認、炊き出しなどを地域で協力して行います。



|   |   |
|---|---|
| <p><b>素早く火の始末 ～ 隣近所に声をかける</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「近くに火は出ていないか」</li> <li>●「消火器を使い火を消せ」</li> <li>●「漏電、ガス漏れに注意」など大声で知らせる。</li> </ul> <p><b>隣近所の安否を確認する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「見つからない人はいないか」</li> <li>●「けが人はいないか」</li> </ul>  | <p><b>地域で協力し救出・救助活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域内の被害情報を収集する。</li> <li>●身動きが取れない人の救出活動を行う。</li> <li>●けが人の応急救護や救護所への搬送を行う。</li> <li>●地域の事業所の協力を得る。</li> </ul>  |
| <p><b>市と協力し避難所運営～秩序ある避難生活のサポート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●避難所マニュアルに従った秩序ある避難所運営を行う。</li> <li>●住民どうしの役割分担、要配慮者への支援をする。</li> <li>●助け合いの心を持ち、協力し合う。</li> </ul> <p>たすけあいのところ</p>   |   |

## 要配慮者への協力

|  |   |
|--|---|
| <p><b>高齢者・乳幼児・傷病者・外国人の方には</b></p> <p>高齢者や乳幼児は、手をつなぐ、背負うなどによりしっかり援護します。傷病者には複数人で対応しましょう。急を要するときはひも等を使って背負うなどにより、周囲の方が協力して援護しましょう。</p> <p>外国人の方で言葉が通じない場合には、声をかけて身振り手振りを交えて誘導しましょう。</p>   | <p><b>からだの不自由な人には</b></p> <p>それぞれの人に適した誘導方法を確認しましょう。車椅子の場合は、必ず複数人で協力し、スロープを上がる時は前向きに、下がる時は後ろ向きにして、恐怖感を与えないように配慮しましょう。</p>    |
| <p><b>目の不自由な人には</b></p> <p>「お手伝いしましょうか」などと、まず声をかけましょう。話すときは、はっきりゆっくり、大きな声で。誘導するときは、杖を持っていないほうのひじのあたりを軽く触れるか、腕をかって、半歩前くらいをゆっくり歩きましょう。</p> <p>視覚障がい者の安全やバリアフリーを考慮した建物・設備・機器に表示する世界共通のマークです。視覚障がい者の利用への配慮について、ご理解、ご協力をお願いします。</p>  | <p><b>耳の不自由な人には</b></p> <p>話すときは、近くまで寄って相手にまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かしましょう。口頭でわからないようであれば、紙とペンで筆談しましょう。紙やペンがなければ、相手の手のひらに字を書いて筆談しましょう。</p> <p>このマークの呼び方は「耳マーク」。聴覚に障がいがある方は、見た目では不自由があることが分かりづらいため、このマークを見かけたら十分配慮しましょう。</p>  |